

「生態系の回復に純粋日本すっぽん」(協同組合通信/井戸端論弾) 15.9.22

我国固有生態系が絶滅の危機。ブラックバスやブルーギルが湖沼や河川に見られるようになり約 50 年。今春、琵琶湖を巡って、これらの魚種のフィッシング愛好家と真摯な生態系・環境擁護派との議論が交わされた。「琵琶湖条例」があり、環境の面から問題は整理済み。大新聞に掲載され、多くの人々の目に触れ、話題を呈した。

イラク戦争は、米英の謀略の節が明らかにされつつある。藪から棒ではなく、ヤブからブッシュのブラックジョーク。世論は、言論操作に長けた者達や大向こうを意識した声の大きさ・はたりに流される危険性を示した点で、教訓的。

ほんの 50 年ほど前迄は、純粋日本すっぽんが東日本以西を主な棲息地域として、固有の秩序ある内水面の生態系を維持。すっぽんは精がつくことから、病中・病後の滋養として乱獲され、多くの地域で既に姿を消しつつある。岡山県の川で天然すっぽん発見がTVニュースの時代。

戦後の頃、アメリカザリガニが持ちこまれ日本ざりがにを駆逐し、追ってブラックバスやブルーギルが続き、我国固有種を絶滅の危機に陥れ、生態系のバランスを破壊した。心無い人々が放流した外来種の繁殖力と獐猛性は、何千年と続いてきた我国伝統文化(絵画、詩歌、食文化等)をわずか半世紀で壊滅させつつある。魂なき文化・文明は空しい。愛好家の浅慮に、固有の望ましい生態系保全に生活・生涯・伝統保持にかけける人々が遠慮する点は毫もなし。

内水面の生態系を再生・回復する為に、純粋日本すっぽんを活用する事を提案する。資料では、すっぽんは冬眠から覚め水ぬるむ春の水温が 20 度になる頃、猛烈な食欲を表わす。この時期、バスやギルも卵を生む。本来の性格は極めておとなしいが、攻撃されると強烈に反撃し、ブラックバスをも追いやる事が確認された。ハブ対策のマンガース。件のキャッチアンドリリースの是非で、釣ったバスを漁協が買って処分する事に比べ、効果的・生産的かつ現実的。

近年、輸入うなぎとのコスト競争に破れ、養殖池が生産休止に追い込まれている。この休養池と休耕田を併用した一石三鳥が可能なプロジェクトである。

( 気象情報システム株式会社 高津 敏 )